

# まちの日記帳



## 大きくなって帰ってこいよ

5/27

ニシン資源の回復・増大を図るためのニシン稚魚の放流が美国漁港で行われました。

放流した稚魚は、羽幌町の北海道栽培漁業振興公社羽幌事業所で育成した約6万匹。稚魚は漁業者や漁協職員など10人が水槽内で泳ぎ回る体長6cmほどの稚魚をホースを使って海中に放流しました。大海原に放たれた稚魚たちは元気に泳ぎ回っていました。

また21日には、島牧村のサケ・マスふ化場から輸送したサクラマスの稚魚の放流も行われ、美国川上流に20万尾、余別川に10万尾を放流しました。



## 親子で楽しい遠足

5/30

子育て支援センターで10組の親子が参加し遠足が行われました。

うららかな初夏の陽気を思わせる中、B&G海洋センターを出発した参加者は、まず美国漁港まで歩き、漁協の荷捌所で普段見ることのない水揚げされたばかりのタコやカレイなどに大興奮した後、漁港内の広場でおやつ休憩。憩いの広場で遊んだあと、B&G海洋センターに戻り、みんなでお弁当を食べながら楽しいひとときを過ごしました。



## 北海道大学祭で積丹町PR

6/6-8

北海道大学学校祭が行われた6月6日から8日まで、同大学大学院工学研究科の小林英嗣教授の研究グループは、積丹町特設ブースを設けPRを行いました。

小林教授の研究グループは余別町ふれあいの森開発をきっかけに15年以上にわたり、余別地域の情報発信等をする一方、神社祭典など地域行事に参加しており、今回積丹町でとれたエビやホッケ、イカなどの地元食材を使った「スープカレー」や「お茶漬け」を出品しました。

また観光パンフレットのほか余別地区のお祭りや運動会など地域行事の様子をパネルやプロジェクターにより展示し情報発信を行いました。今後同研究グループは、今年度からサクラマス・サンクチュアリーセンターの運営の手伝いや植樹活動などに参画を予定しています。



## 今年の「良い歯」は129人

6/3

積丹町子どもの歯を守る会（尾立光会長）の主催により「第21回よい歯の子・第18回8020表彰式」が総合文化センターで行われました。

今回表彰されたのは、幼児23人、小学生77人、中学生27人の合わせて127人。そのうち、全く虫歯になったことのない健全歯の子は28人いました。

また、80歳以上で20本以上自分の歯を持っている8020表彰式では、今年度2人の方々が表彰されました。



## 海難事故を防ごう

6/13

北海道海域周辺で各種漁業の最盛期を迎え活発な操業が行われている中、(社)北海道漁船海難防止・水難救済センターは、「春期漁船海難防止強調運動」期間に合わせ、海難防止パレードを行いました。

パレードは、同センターのほか、後志支庁や海上保安部、漁協、町職員など6人が参加、町内の各漁港を巡回し、漁業者などに対して風船やポケットティッシュなどを配布しながら海難事故防止を呼びかけました。



## 親子で楽しくクッキング

6/15

お菓子づくりを通して、親と子のふれあいを深めることを目的とした第1回親子ふれあい塾「親子でクッキング」が総合文化センターで行われ、8組の親子が参加しました。町食生活改善推進委員会（越谷玲子会長）の皆さんに協力いただき、家庭でできる簡単なお菓子としてにんじんドーナツとブルーベリーのスティックドーナツを作りました。

参加した子ども達は、にんじんをおろし器ですりおろしたり、フライパンで揚げたりするなどゆっくりながらも懸命に作業を進め、親子で楽しい料理教室となりました。

